もとどおりになった。
そっとのぞくと
自分の顔がうつった。
ちょっとはずかしくなった。

6年
山崎奈津子

## うさぎのこじ郎

私の家には、うさぎがいます。名前は、こじ郎といいます。けれど、ふだん家では、「ピョンタ」とか「ピョン吉」と、よんだりして、こじ郎とは、めったによびません。

こじ郎をもらってきたのは、二月三日でした。学校からもらったので、以外にまんまるふとっていました。なぜかと言うと、一年生や三年生がたっぷり、えさをやってくれたからです。

こじ郎をもらった日は、ミニバスで帰るのがおそくなった日でした。友達のほとんどの子が車で帰ってしまって、一人で帰るはめになってしまいました。しかたなく、片手にカサを持って、ゆっくり歩きました。ゆっくり歩かないと、こじ郎が転ぶかもしれないと思ったからです。

ずっと、そのまま歩いて行って、みゆきちゃんの家の前まで、やっと、たどりつきました。つかれたので、少し休んでいたら車がきました。よく見てみたら、お母さんでした。私は、『お母さんが来てくれてよかったなあ。』と思いました。なぜかというと、風が強くて、こじ郎がぬれそうだったからです。本当にホッとしました。

家についてから、さつまいもやチンゲンサイやニンジンやクローバーやあざみを食べさせました。最初は、私が近くで見ていたので、食べなかったけれど、少しなれたら食べてくれました。

家には犬がいるけど、うちの犬は『やめなさい。』というとやめるので安心です。家の人も動物が大好きなので、いつも『うさぎをもらってきてよかったなあ』と、思いました。

こじ郎に、いい物を食べさせて、大きくなってもらって、元気な、長生きうさぎにしたいと思っています。

## 一年生の作品から（ねんどざいく）

## シリーズ 我が家の家庭教育

小田部　佐久間富美子

我が家は中一、小三の男の子二人、父母、そして私達夫婦の六人家族です。私達は夫婦共働きの為、二人の子供は母が親がわりで育ててくれました。子供と話し合う又、触れあいの場の機会が一番多いのは食事の時ですから、家族全員、家であった事や学校での出来事等を話しながら取るよう心掛けごく当り前のことですが、「いただきます」「ごちそうさま」と怠ることなく挨拶をし、食事を通して親子の結びつきを深めている。

普段子供達に教育と言っても、私自身がまだまだ、未熟ですから子供が悪いことをした時は、子供の気持ちも考えずいきなり、心を傷つけるような口調で叱り、後で子供に謝ったり、自分自身後悔する有様です。善い時は認めてやり、悪いところは反省をしながら成長し、他人へのおもいやり、譲りあう心で家族全員、毎日明るく健康で暖かみのある、笑顔の絶えない家庭をこれからも、営んでいきたいと思います。

又今年は上の子が中学に入り、心身共に不安定の時期にさしかかりますので、親が余り口うるさくする事なく、そっと見守り子供が本当に迷っている時には優しく言葉をかけ、正しく導き決してまちがった青春を送らない様に願いつつ、私も子供と一緒に努力の積み重ねをしていきたいと思います。